

平成 26 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (日本海) について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、平成26年は7月14日、8月4日、9月9日に桁網(水工研II型)を用いてつがる市沖8点で調査を行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると0~566尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました(表1)。採捕したヒラメの全長組成は7月14日に水深5mで30~40mm台、10mで30mm台、8月4日に水深5、10mで30~40mm台、9月9日に水深5、10mで60~70mm台が主体となっていました(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成26年は423であり、近年では高水準であった平成23年(着底指数713)に次いで2番目に高い水準でした(図3)。これまでの調査結果から、日本海では着底指数が高かった年の翌々年に2歳魚の漁獲尾数が多くなる傾向があることから、2年後に漁獲対象となる本年生まれの資源は高い水準になると期待されます。

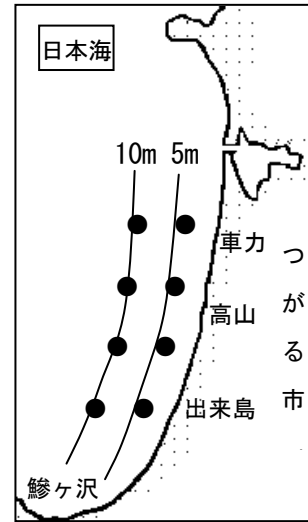


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海									(尾/1,000m <sup>2</sup> )	
調査月日/調査点	水深 5m				水深 10m				5m	10m
	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	平均	平均
2014. 7. 14	566	427	374	311	106	267	266	314	423	236
2014. 8. 4	130	325	262	206	24	106	245	133	228	127
2014. 9. 9	11	0	8	27	0	3	9	3	14	3

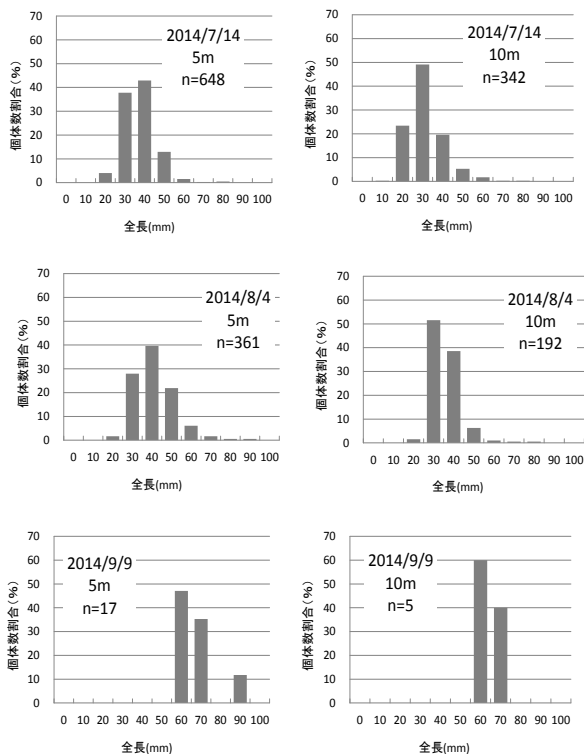


図2 採捕したヒラメ稚魚の全長組成

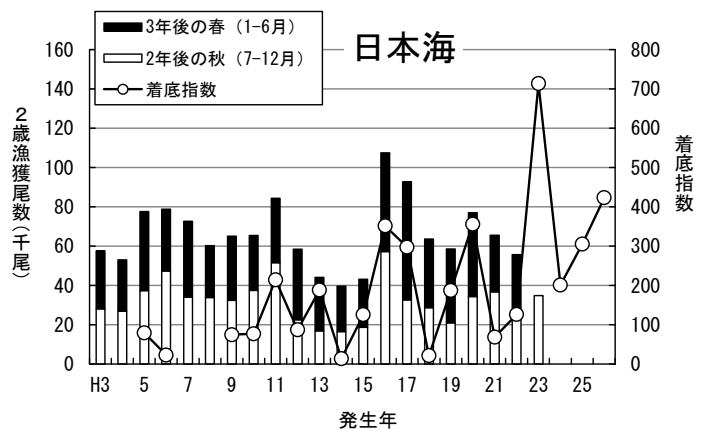


図3 日本海のヒラメ着底指数と2歳魚漁獲尾数の推移